

第 11 回名古屋工業会大阪支部技術士部会  
台湾に貢献する日本土木技術の見学会(2019.10.29~31)

日 時：10 月 29 日～31 日

場 所：1. 烏山頭（ウサントウ）ダム  
2. 台湾新幹線盛土安定化施工現場

参加者：6 名（M39 山本、Y40 片岡、C44 木越、M45 掛田、M46 松永、E47 福井）

令和最初の技術士部会を「台湾に貢献する日本土木技術の見学会」として、10 月 29 日～31 日の 3 日間、6 名のメンバーで台湾に行き、見学してきました。

1. 烏山頭ダム（通称：八田ダム）

場所は台南市官田區嘉南里 68-2 號にあり、常に旱魃の危険にさらされていた農地面積 9 万ヘクタールの嘉南平野を潤すためダム建設を八田與一（よいち）は国家公務員の立場を進んで捨て、1920 年から 1930 年のダム完成まで技師として工事を指揮しました。このダム建設による灌漑で台湾最大の穀倉地帯となり、八田與一の銅像が建てられています。



八田ダムの  
堤体から

中央の銅像  
が八田與一



2. 台湾新幹線盛土安定化施工現場

場所は苗栗（ビョウリツ）県にあり、台湾新幹線の車両は日本の東芝製で性能は良いのですが、レール下の盛土が沈下し新幹線の走行に支障をきたしていました。施工は韓国の会社でした。そこで、日本の(株)相建エンジニアリング（社長は木越正司技術士）がプレストネット工法の施工と地盤の遠隔モニタリングをセットで提案・実施し、良好な評価を得てるものです。



盛土上を新幹  
線が通過中

台湾の相建  
事務所にて



記：松永純二（M46）